

年頭ご挨拶

危険物保安技術協会
理事長

緒方 俊則



平成31年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

当協会は、昭和51年11月に設立されて以来、石油等の危険物を貯蔵する屋外タンクの審査をはじめ、危険物施設等の安全性に係る性能評価及び技術援助、運搬容器等の試験確認、事故情報等の提供、更には調査研究、講習会等の開催など、多様なかつ広範にわたる各種業務を通して、危険物施設等の安全の確保を図ってまいりました。

業務の実施に当たりましては、平素から、総務省消防庁をはじめ、各消防機関、関係業界・団体等の皆様の温かいご指導と力強いご支援をいただいておりますことに対し、厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年5月に消防庁から発表された、「平成29年中の危険物に係る事故の概要」によると、平成29年中の事故発生件数は564件と、依然として高い水準で推移しており、施設や設備の長期使用による危険物の大量流出や、浮き屋根の沈降等が発生しています。

こういった状況に対応して、危険物施設全般について点検のあり方や施設の長寿命化のための補修・補強方法等の検討、また、屋外貯蔵タンクについては浮き屋根の点検や事故時の応急対策等についての検討が、現在、消防庁において進められています。当協会としましては、消防庁と連携しながら検討を行い、必要な対応を進めてまいりたいと考えています。

また、危険物施設を保有する事業所の自主保安体制、検査体制を第三者機関としてチェックする保安診断業務や、自主保安の取組を支援する災害対応演習（出前研修）を進めてまいります。

さらに、東日本大震災を契機に非常電源用地下タンクを設置する建物が増えてきていることを踏まえ、地下タンクの安全性評価業務を進めるとともに、消防庁における検討状況をもとに、タンク審査における水張検査の合理化や新しい検査技術の実用化に向けての検討を進めていきたいと考えています。

平成30年7月豪雨、大阪府北部の地震、北海道胆振東部地震など、近年は、災害が大規模化、広域化してきており、危険物施設について備えを進めていくことも喫緊の課題となっています。当協会は、これまで各方面のご理解とご協力により、円滑な業務運営を行ってきておりますが、これまで培ってきた信頼と技術を基に、今後とも公正、中立な技術的専門機関として、危険物に関わる事故の防止、安全の確保に一層貢献してまいります。

新年を迎えるにあたり、役職員一同、決意を新たにして、皆様の期待と信頼に十分お応えできるよう積極的な業務展開に努めてまいりますので、一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

皆様方のご健勝と益々のご発展を心からお祈り申し上げて、新年のご挨拶とさせていただきます。